

# 大分豊府新聞

第188号

編集・発行所  
大分県立  
大分豊府高等学校  
新聞部  
印刷所  
大分県立  
大分豊府高等学校

## 新校長 野尻明敬先生

# 「リーダー性を持ち 明るく元気な学校に」

今年度から本校の校長に就任した野尻明敬先生。以前に本校で教頭を務めており、全国の高校文化連盟（以下高文連）の副会長、大分県高文連の会長を経て、今年度から大分県高文連の将棋専門部長に就任している。今回は、プライベート、高校教員としての心持ち、今後の大分豊府についてインタビューを行った。

### 「二百間は 一見にしかず」

野尻校長の趣味は、将棋と旅である。まず、将棋には若いころから取り組んでおり、本校で十年



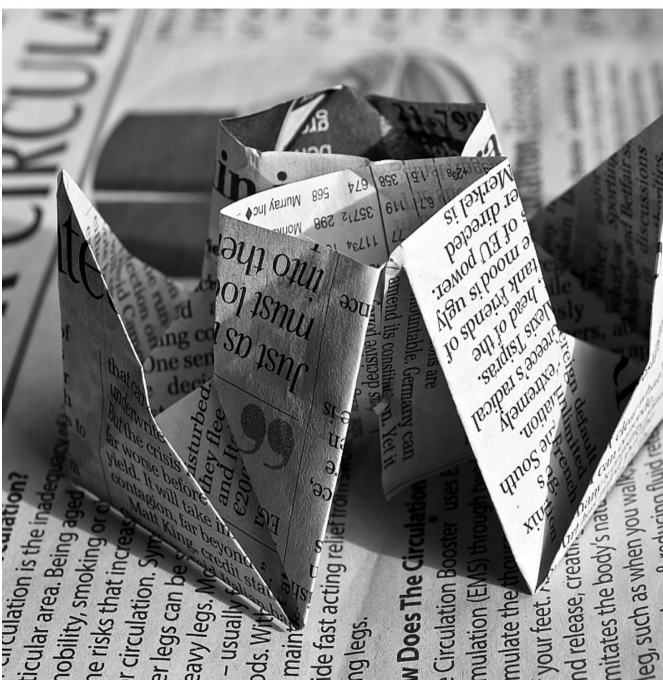
「野尻」の駒を手に

今年度から本校の校長に就任した野尻明敬先生。以前に本校で教頭を務めており、全国の高校文化連盟（以下高文連）の副会長、大分県高文連の会長を経て、今年度から大分県高文連の将棋専門部長に就任している。今回は、プライベート、高校教員としての心持ち、今後の大分豊府についてインタビューを行った。

前に教頭として将棋部の顧問を務めていた時には、将棋部を全国三位に導いたという。一昨年に大分県で開催された国民文化祭の期間中、元プロ棋士である加藤一二三さんと

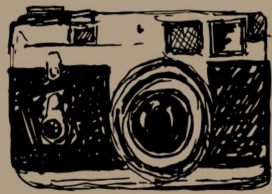
### 「二期一会」 を大切に

野尻校長は「二期一会」という言葉を大切にしている。



## 新聞部 入部募集中!

兼部、未経験者も可!  
勉強との両立が、容易にできる部活です!!



場所 3F 図書館前の部室

仕事は向いていないと思っていた。生徒にも恵まれて、生まれ変わっても先生になりたいと思える」と話す。

そんな校長の一番の楽しみは生徒と話すこと。前任校でも、校長室で面接の練習をするなど、生徒の進路サポートも積極的に行っていったという。

また、部活動の応援にも熱心で、土日にも趣味として生徒の活躍を見に行くこともよくある。生徒が好きで教員になったという出会いを大切にしたいという思いからである。

校長室に飾られている「一期一会」の文字は、書道の堀谷先生が揮毫したものだという。

高校教員となったきっかけのひとつも、高校時代にいい先生に恵まれたことだった。「人が好きで、機械相手や事務的な

野尻校長が本校の教頭であった当時、中高一貫

校としての豊府は始まったばかり。当時に比べ、「授業態度やスリッパをそろえるなどのマナーが徹底され、より良い学校になった」と話す。現在の日は、一回は校内を回って校内の様子を見ることだ。

### これからの 大分豊府

野尻校長は「リーダーとはどうあるべきか」として考えてきた。生徒たちもいつかは部下を持ち、引張って行く立場になるが、人の話をちゃんと聞き、場の雰囲気を保つこともリーダーとして大切だという。今後の大分豊府について「もっと明るく元気よい学校にしたい。生徒にはリーダー性を持ってほしい」と語った。(文責: 佐伯)

## 豊交短論

「もっと勉強しなきゃ」。そんな会話を頻繁に耳にする。長かった休校期間が明け、大分県立大が入学試験が確実に近づいている。そして、部活動の引退も目と鼻の先だ。唐突だが、昨年度の高校生活は部活動一色だったと思う。写真を撮り、取材をし、編集をする。休日も放課後も新聞を作り続け、あまりの忙しさに翻弄された。自分には本当に最高の新聞を作れているか。部長として相應しい振る舞いができているか。不甲斐ない自分に疑問を抱くことも多々あった。けれどそれは、私にとって最良の日々だった。「今日の新聞も面白かったよ」と、先生方や友人が新聞をほめてくれる。苦勞の末のその声私の宝物だった。引退が近い。なんの節目もなく、気づいたら終わろうとしている。部活動から勉強へ、ギアを変えなければ。頭でわかっているけど心がそれを拒む。新聞の完成に部員皆で喜んだあの日。いつか聞いたあたたかい声。引退してしまえばもう戻らない。私は未だに気持ちを切り替えきれない。だが進まなければ。重くのしかかる喪失感を振り払い、受験生として進まなければ。二年間の部活動を財産に新たな一歩を踏み出したい。

(文責: 鱸)